

終業式という言葉

今日は1学期の終業式。明日から夏休みを迎えます。今年の6月は、1898年に観測が始まってから、史上もっとも暑い6月になったようです。平均気温がいつもの6月より2.3度暑かった、そして7月も暑い日が続くであろうと言われています。

日本の夏は暑いので、日本人は昔から「かげ」が好きだったようです。道を歩いているとき、木の陰やビルの陰に入ると少し涼しくなりますね。昔の家には、窓に竹やアシを編んで「すだれ」をたらし、部屋に日が入らないように影を作っていました。暑いとき「かげ」に入ることは、日本人にとって生活の知恵だったのです。

だから、「かげ」を使った言葉がいくつかありますので、紹介します。まず、「影」と「陰」。「影」は、光をさえぎると現れる黒い形を指します。「陰」は、光が当たらないところを指します。つまり、「影」は実体がないものに使われ、「陰」は薄暗い場所を表すのです。

地面に光が当たって人影が写るのは「影法師」で「影」を使います。「影武者」は大将の身代わりの人を言います。

「木陰」(こかげ)は木の陰のこと、「陰日向」は日の当たるところと当たらないところという意味ですが、人目があるなしで言葉や行動が違う意味で使われています。

さて、人間は自由に日向と日陰を選べますが、植物は時折差し込む木漏れ日を効率よく受け止めなければ生き残ることができません。水と空気と太陽の光だけで生きていくのです。

そんな植物を守るために、私たちは水、空気、光などの自然からの恩恵を守らなければいけません。今の自分に何ができるか、この夏休みに少し大きなことを考えてみてください。

さて、今日は皆さん一人一人に通知表が配られます。通知表には、担任や専科の先生方からのメッセージが込められています。おうちの人と良く読んで、1学期の生活を思い起こしてみたり、2学期からの生活を計画してみたりしてください。

そして、最後に、1学期の自分をほめてあげてくださいね。ほめてあげるところは誰にでもあるはずですよ。